

(8) 中国



中国地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、 _ は下方に変更)

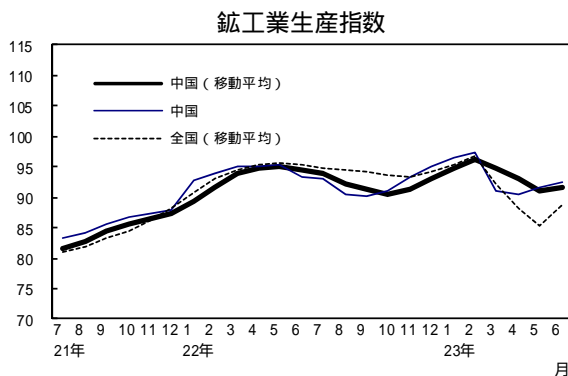
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 23 年 5 月)	今回 (平成 23 年 8 月)	
景況判断	東日本大震災の影響により、弱含み	緩やかに持ち直し	
鉱工業生産	東日本大震災の影響により、減少	緩やかに持ち直し	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動き	
雇用情勢	持ち直し	緩やかに持ち直し	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

鉄鋼・輸送機械は、足元では回復しているが、4、5月の自動車減産の影響により四半期では減少している。化学は、エチレンプラントの定期修理の影響により減少しているが、足元では回復傾向がみられる。一般機械は、堅調に推移している。電子部品・デバイスは、携帯電話、PC、AV関連機器用途の受注が減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

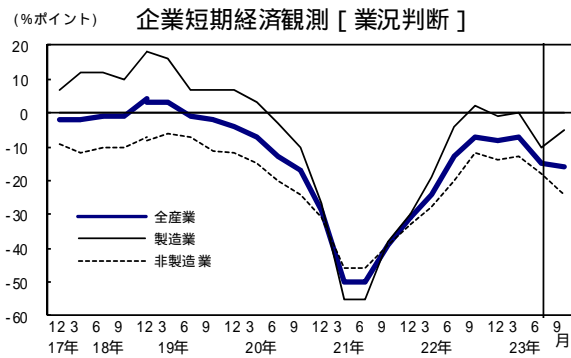
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
鉄鋼	16.5	7.0	5.3	4.9	0.0
化学	16.1	4.2	6.1	4.2	3.6
輸送機械	14.8	4.7	7.2	13.6	186.4
一般機械	10.7	3.1	3.4	4.7	9.9
電子部品・デバイス	7.3	0.1	10.0	9.5	-
鉱工業	100.0	1.9	3.6	5.3	11.2

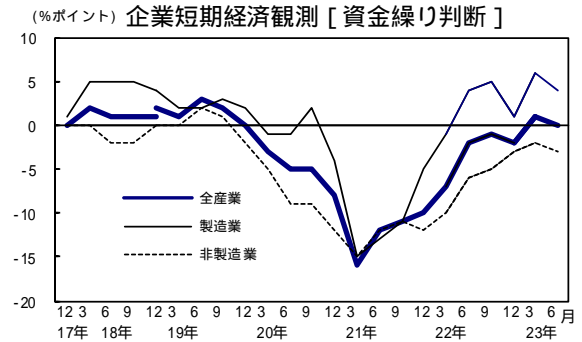
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 4~6月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

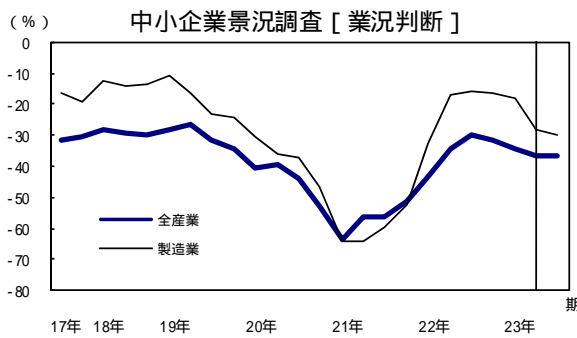
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

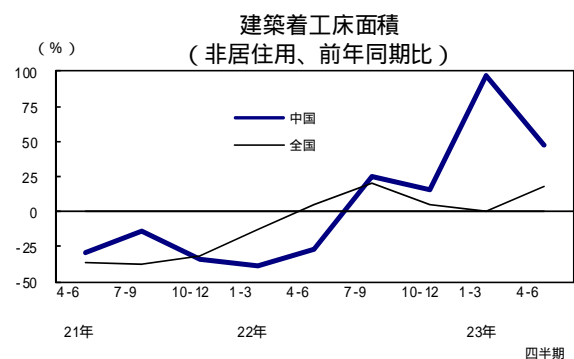
「自動車向け需要が回復し、液晶向け需要も堅調に推移しているが、その他は目立った変化がみられない(非鉄金属製造業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	0.0(2.2)	9.8(10.9)
製造業	8.2(0.2)	6.1(13.7)
非製造業	10.6(5.7)	15.5(7.2)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

大型小売店販売額

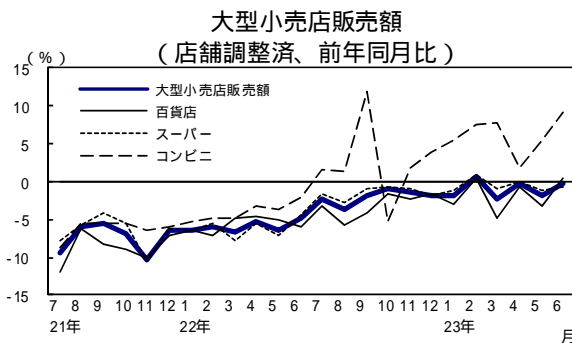
大型小売店販売額は、前年同期比で0.8%減、前期比で0.3%減となった。

百貨店は、4月は、衣料品が東日本大震災による買い控えの反動で好調だったことなどから前年比減少幅は縮小した。5月は、涼感寝具など盛夏商材が早くから動くも、高額品や衣料品の動きが鈍く、前年比減少幅は拡大した。6月は、お中元をはじめ飲食料品が好調で、衣料品も男性用のクールビズ関係が好調だったため、前年を上回った。

スーパーは、飲食料品・節電グッズが好調だったが、衣料品は低調だったため、前年比減少幅は拡大した。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「例年より早い梅雨明けで夏セールは活発に動いているが、並行して動くべき初秋物は、東日本大震災の影響による各アパレルの商品の作り込みが縮小していることから低迷が継続している(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	22年7-9月	10-12月	23年1-3月	4-6月
大型小売店(*1)	2.6	1.4	1.2	0.8
百貨店(*1)	4.2	1.8	2.6	1.2
スーパー(*1)	1.8	1.2	0.5	0.6
大型小売店(*2)	0.4	0.3	0.6	0.7
(季節調整値)(*3)	(1.0)	(0.8)	(0.5)	(0.3)
乗用車(*4)	13.9	26.8	24.0	32.1
(季節調整値)(*4)	(8.8)	(32.3)	(5.6)	(14.3)

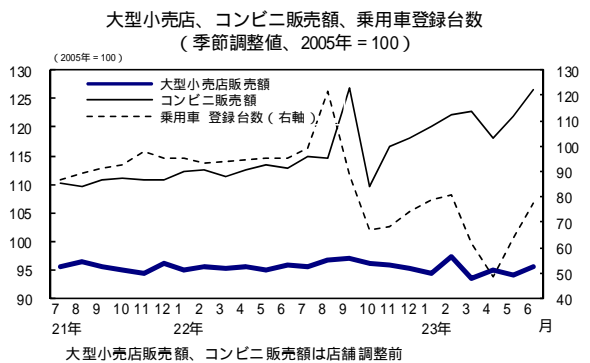
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

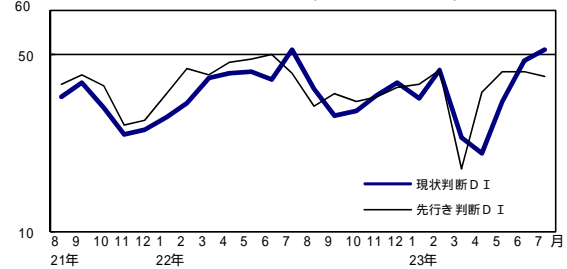
3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



景気ウォッチャー調査(家計動向関連)



(2) 住宅建設は増加している。

貸家、給与等が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

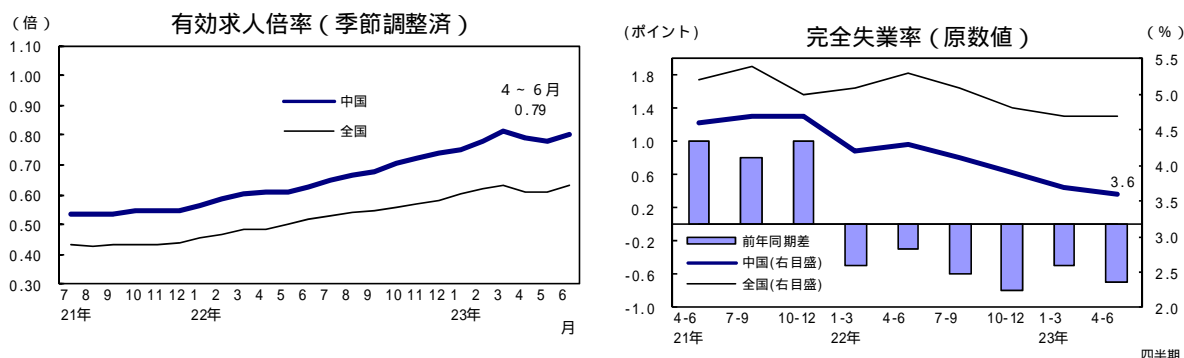


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

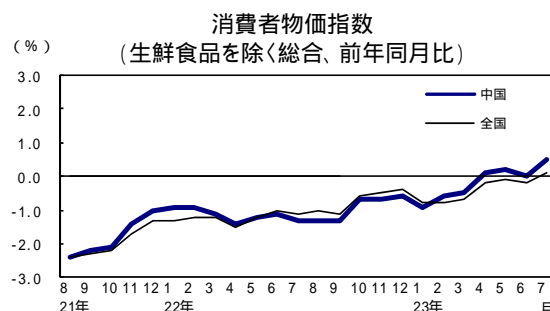
「人材派遣、人材紹介ともに求人が増加している。特に当地域で裾野が広い自動車関連企業からの求人が増加しており、この状況はしばらく続きそうである (人材派遣会社)」など「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加し、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年7-9月	10-12月	23年1-3月	4-6月	23年7月
倒産件数	110	95	114	129	47
(前年比)	29.5	39.1	3.4	16.2	23.7
負債総額	213	170	2614	746	74
(前年比)	34.6	63.6	611.7	205.4	29.4



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・ 携帯電話業界の夏商戦では、新機種の販売とともにスマートフォン人気の影響もあり、昨年に比べて販売が好調である (通信会社)。

<先行き>

- ・ 低燃費エンジンの新型車が発売され、生産水準が上昇する一方で、円高によるコストダウン要請が更に厳しくなる (金融業)。

